

## 令和2年度 第2回たかまつ移住応援隊ミーティングの結果について

日時：令和3年2月26日（金） 19時00分～20時30分

会場：Web会議システム（ZOOM）

参加者：14人（移住リーダー 3人・一般サポーター 5人・専門サポーター 6人（団体））

議題：①令和2年度の事業実績

②令和3年度の事業計画

③たかまつ移住応援隊の機能強化

### <たかまつ移住応援隊からの主な意見等>

#### ○情報発信

- ・SNSが多様化し、年代などにより利用しているSNSも異なっている。情報発信のツールとしてSNSを利用するのであれば、Facebookに限定する必要はないのではないか。不特定多数がアクセスするYouTube等に広告を掲載することを検討してはどうか。
- ・高松市の魅力といってもテーマが大きすぎて、何を情報発信したらいいのかわからない。自身の得意分野であれば楽しみながら情報発信ができるのではないかと。分野別にチームを分けて情報発信してみてもよいのではないかと。
- ・情報発信でSNSを使用するのであれば、市から提案のあった新たにFacebookページを立ち上げるよりも、既に市が運用しているフォロワーのいるSNSをうまく活用していくべきではないかと。
- ・SNSの発信は大変で、継続的に行っていくことは困難である。ノルマがあれば対応できるのかもしれないが、それでは仕事になってしまう。楽しく続けられる手法を検討すべきではないかと。
- ・移住希望者と企業を繋ぐ企業説明会の場を市が主催で開催することはできないかと。
- ・ボランティアでは活発な情報発信ができないのではないかと。利益誘導ができるような仕組みがあれば参加する人も増えてくるのではないかと。
- ・移住応援隊のFacebookグループがあることを知らなかった。
- ・移住体験ツアーなどのイベントを契機に高松への移住されている方もいる。オンラインを使用した情報発信も必要ではあるが、「FACE TO FACE」での対応も重要である。
- ・移住に際して、高松市移住ナビを利用したが、そこに行きつくまでに時間がかかった。

### ○相談対応

- ・相談対応については、応援隊の個人任せにされると難しい。高松市の方と一緒に相談するようになってほしい。
- ・既に、SMOUT やネイティブメディアなど、移住希望者と移住先をマッチングしたり、相談ができるシステムが民間で構築されている。新たに市が作るのではなく、そのようなシステムを利用してはどうか。

### ○その他

- ・他の市町がやっていないような移住者を呼び込む方法を検討すべきではないか。
- ・自身と同じような境遇の方もいるため、移住に際して利用した起業の補助金を復活してもらいたい。